

検証保育・検証授業3 具志堅智美教諭（南城市立大里南小学校）

去る7月7日(火)に南城市立大里南小学校で行われた、前期教育研究員の具志堅智美教諭による小学校体育の検証授業では「ゴール型ゲーム」であるハーフバスケットにおける基本的な動きやボール操作、グループでの活動を意識した授業において児童に学習の見通しを持たせ、教師が前向きな評価をあたえることで児童が自ら積極的に活動していました。

指導講師の與儀毅氏(八重瀬町立東風平小学校教頭)からは、本検証授業における今回の基本的な動きづくりの工夫は、二極化の進む児童の運動の状況下で、普段あまり運動しない児童にとっても有効な活動であり、運動が苦手だと思われる児童も積極的に活動していたことから、生涯スポーツの素地づくりとしても有効な授業であったとお話がありました。さらに、課題として①学習内容の精選、②学習内容の系統化、③基礎技能運動の体系化、④ドリルゲームとタスクゲームとの関連の4つが挙げられました。

検証授業研究会の中では、全児童が楽しそうにゲームに参加しており、その為に用具や器具の準備が用意周到に行われており、場の設定が整っていることが感想として述べられていました。

【研究テーマ】

〈小学校体育〉

運動に親しむ資質や能力を育む学習指導の工夫
～運動の基礎技能づくりを取り入れた「ゴール型ゲーム」を通して～

【研究仮説】

「ゴール型ゲーム」において、基本的な動きやボール操作を身につける運動の基礎技能づくりの場を取り入れて、できる楽しさやわかる楽しさを味わう指導を行えば、運動に親しみ、進んで運動に取り組む児童が育つであろう。



写真1 検証授業の様子

写真2 検証授業研究会の様子

写真3 大里南小学校にて

検証授業を終えて（具志堅智美教諭）

1週間という長い期間が空いていたにも関わらず、学習の流れに沿って活動することができ、バスケットボールの動きに繋がる基礎技能ができる楽しさを味わわせることができたと思います。ドリルゲームの場では、それぞれの基礎技能のできる喜びに繋がるゲームを楽しんで行うことができたのは良かったです。「ピボットおにごっこ」のチームでは、人数が合わないトラブルがあってもキャプテンを中心に自分達でアイデアを出して解決する姿に感動しました。タスクゲームでは、シュートに繋がる手立ての1つにしていたスーパーエリアの角度がずれていたため、明日の検証授業に向けて角度の修正をしたいと思います。ワークシートの課題は今日の授業を見ても、内容の量が多く、精選することが必要だと反省しました。子ども達の運動量を多く確保することが大切だと分かっている、あれもさせたいと盛りだくさんになるところがあり、反省しています。多くのアドバイスを頂くことができたので、これを残りの検証授業に活かしていきたいと思います。

ご指導して下さいました指導講師の與儀先生、応援して下さいました研究員のみなさん、本当にありがとうございました。